

ロボット活用 ノウハウ助言



小松社長(左)にロボット導入の助言をする
村上常務理事(中)と川口さん
(広島市西区)

中小企業対象 生産性向上へ

大手メーカーの元技術者でつくるNPO法人ATA C(アタック)ひろしま(広島市西区)が、中小メーカーを対象にロボット導入の支援を強化している。製造現場に人手不足が広がる中、スタッフが課題を診断し、生産性を高める方法を助言する。(境信重)

従業員約70人の金属加工業、ニッテツ(西区)の本社。「6台のプレス機の中に部品を受け渡すロボットを置けば、作業員が5人浮く」「フロアで作業しやすいようにロボットは上に設けよう」。庄原市の工場の改善に向け、いずれもマツダ出身であるATACひろしまの村上敏彦常務理事(71)と川口桂司さん(69)が次々と提案する。

ニッテツの小松貞満社長(69)は「若い人がなかなか集まらず、慢性的に人手不足」と明かす。村上常務理事たちの助言について「新鮮なアイデアが得られる」と受け止める。

ATACひろしまは、大手メーカーの退職者29人が登録し、中小メーカーの技術支援をしている。2012年度に広島県から受託して中小企業のロボット導入を初めて支援した。昨年度は、ちゅうごく産業創造センター(中区)の助成を受けて、広島県内にある50社のロボットのニーズを調査。需要の高まりを背景に、本年度は同センターから導入支援事業を受託した。

導に当たるのは、マツダや日本製鋼所広島製作所(安芸区)、JFEスチール西日本製鉄所福山地区で生産の管理や自動化を経験した7人。県内の50社のうち、

中国経済

要望があったり社内の課題を洗い出し、必要なロボットの機能や台数、配置を提案している。国の補助金を申請するための書類の作成も手伝う。現場の診断は無料

で申請支援は6万円。村上常務理事は「中小企業はロボットに詳しい人が少なく、効果を見極めるのは難しい。そこを手助けしたい」と説明する。

掲載 (2016/9/6朝刊)

「中国新聞社の許諾を得て転載しています」